

ピロリ菌外来のご案内

ヘリコバクター・ピロリ菌は、胃の中に生息するらせん状の細菌で、日本人の2人に1人、40歳以上では70%以上の方が感染しているとされています。胃の粘膜に炎症を起こし、慢性胃炎や胃・十二指腸潰瘍の主な原因となりますが、さらに胃がんの発生に強く関わりがあることが明らかになっています。厚生労働省の調査では、ピロリ菌に感染している人は感染していない人に比べて、5倍、胃がんになりやすいことがわかりました。またピロリ菌を除菌することで、2次胃がんの発症を1/3程度にまで減少させられることも明らかになりました。2009年1月に日本ヘリコバクター学会から出された最新のガイドラインでも、ピロリ菌感染者全員に除菌治療が強く推奨されていますが、現在保健適応となっているのは胃・十二指腸潰瘍の患者さんのみで、胃炎や胃がんの予防に対するピロリ菌の検査・治療は保険診療の対象外です。

当院では、ピロリ菌に感染しているかどうかの検査や胃がん予防目的の除菌治療を希望される方々に対して、全額自費負担ではありますが、「ピロリ菌外来」を開設して、当地域からの胃がんの減少・撲滅を目指し診療を行っています。

料金は検査方法、ピロリ菌の除菌治療や内視鏡検査を行うかどうかによって違ってきます。下記の診療料金をご参照ください。

記

【対象となる方】

1. ピロリ菌感染の有無を調べたい方
2. ピロリ菌の除菌治療を希望される方

【対象とならない方】(通常の外来診療で保健適応となる方)
胃潰瘍・十二指腸潰瘍の治療を受けているか、治療経験のある方

【診察日】

金曜日 午後2時～3時(要 予約)

【診療科】

内科外来

担当医：日本ヘリコバクター学会 ピロリ菌感染症認定医
内科医長 佐野 望

お問い合わせ：塩竈市立病院 内科外来

: 022-364-5521

【注意事項】

- ・他の科を診療する日に、ピロリ菌外来を受診することはできません。
- ・尿素呼気試験や内視鏡検査を希望される方は、受診当日、昼食はとらないでご来院ください。(朝食は可。)
- ・いつも服用している薬は通常通り服用してかまいません。
- ・内視鏡検査ご希望の方は、経口内視鏡もしくは経鼻内視鏡が選択できます。事前にお知らせ下さい。

何か不明な点があれば、予約時にご相談下さい。

ピロリ菌外来料金表

記

ピロリ菌感染の有無を調べたい方

	検 査 法	費 用
1	診察 + 血清抗体検査 (1)	6,000円
2	診察 + 尿素呼気試験 (2)	9,000円
3	1 又は 2 + ペプシノーゲン測定 (胃がんリスク判定)	上記 1・2 の費用に + 2,500円
4	1 又は 2 + 内視鏡検査	上記 1・2 の費用に + 13,000円 ~

ピロリ菌感染の有無 + 除菌治療を希望される方

	検 査 法	費 用
	感染診断 + 除菌治療 (3) + 除菌判定 (尿素呼気試験)	上記 + 13,000円

除菌治療のみの方

	検査法	費 用
	除菌治療 (3) + 除菌判定 (尿素呼気試験)	13,000円

- 1 血清抗体検査 : 血液検査です。ピロリ菌に関する抗体 (身体側の反応) の有無を測定して感染しているかどうかを調べます。

- 2 尿素呼気試験 : 肺から出てくる呼気 (吐く息) を専用のバッグに集めて検査します。尿素を含んだ試薬を飲んで十分に胃に行き渡らせます。ピロリ菌がいる場合は、尿素が分解されてアンモニアと二酸化炭素になりますが、二酸化炭素は速やかに吸収されて肺から呼気となって排出されますので、それを調べて感染の有無を判断します。この方法は検査の精度が高く、感染の診断にも除菌後の効果判定にも有用です。

- 3 除菌治療 : 2種類の抗生物質と1種類の胃薬を、1週間内服します。

- 4 ペプシノーゲン法 : 消化酵素ペプシンの前駆体であるペプシノーゲンには、
、 のサブタイプがあり、その血清濃度と萎縮性胃炎の進展には相関があります。萎縮性胃炎は胃癌の高危険群であることから、血清ペプシノーゲン値を用いて胃癌の高危険群をスクリーニングする手段が『ペプシノーゲン法』です。